



133
2024秋

にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 — 長岡英司

“さわってごらんいただけます”

点字にふれる展を開催して — 徳平 京
鳥類学者が語る

『骨から探る鳥のふしぎ』開催報告 — 島絵里子

「273,000 人」の見方 — 立花明彦

点字文化を守り伝え続けるために — 澤村潤一郎

追悼 鶴岡巍先生 — 石橋迪子

目からウロコならぬ

「“手”からウロコ」への^{いざな}誘い — 元木章博

外出支援にあなたの手を貸して！ — 山口和彦

相談デスクを通して見えてきたこと — 小林 章

私と日点 — 高橋由美

手数料免除口座開設のご案内

リレーエッセイ — 相田侑佳里

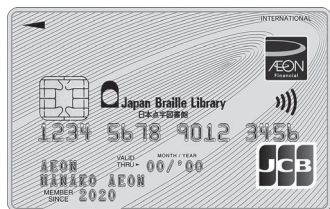
ご存知ですか？こんな商品

チャリティコンサートののご案内



ISSN 0916-8877

日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・

お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号: **0570-071-090** (ナビダイヤル / 有料)

043-296-6200 (有料)

受付時間: **9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意ください。



イオン銀行

(業務受託会社)



イオンフィナンシャルサービス

乱読ができる喜び

ながおかひでじ
理事長 長岡英司

毎年10月27日から11月9日までの2週間は読書週間です。私たち視覚障害者の読書環境は、デジタル化によって近年目立って様変わりしました。自身の読書を振り返りますと、当館が2004年に開始した録音（デージー）図書ネットワーク配信サービス「びぶりおネット」の利用が大きな転機でした。2010年に点字図書とデージー図書のオンライン配信がサピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）に統合されて発展するに連れて、読書の利便性の向上が進みました。点字図書も録音図書も、自由にダウンロードしてすぐに読めることから、読書量が飛躍的に増えました。

私の読書のスタイルは乱読に近いように思います。その中で最近^{うちだひやっけん}は内田 百 聞の作品がとても気に入っています。きっかけは、日本経済新聞の記者時代から当館を種々ご支援くださっているAさんが書かれた記事を読んだことでした。現役を退かれた今も年に数回大きな企画記事を執筆されており、その一つに、著名な随筆家・小説家内田百聞の人物像が味わい深く描き出されていました。早速サピエにある内田の作品を読みました。目前にあった恩給の権利を放棄したり、芸術院会員への推薦を「イヤダカラ、イヤダ」と断ったり、偏屈で我儘と思える半面、内田の親切で思いやりのある側面も垣間見えます。例えば、全盲の著名な箏曲家^{みやぎみちお}宮城道雄との交友の中にそれを感じます。多くの作品に実名や仮名で宮城が登場します。内田が企画した豪華客船中での作家や文化人による座談会に宮城も招待し、そのときの様子が巧みに記されています。著述家と音楽家として互いを敬い、酒の付き合いも楽しんでいたようです。内田が目の見えない宮城に悪ふざけをしたり、宮城がそれをうまく往なしたりと付き合いは深く、視覚障害者の行動の特性や周囲の配慮がよく描かれています。

そうした興味深い記述に引かれて内田作品を手当たり次第に読みました。一種の乱読を楽しんで、宮城道雄の人物の大きさを改めて知ることもできました。

“さわってごらんいただけます”

点字にふれる展を開催して

ギャラリーエークウッド 学芸員 とくひら 徳平 けい 京

10月24日まで、東西線・東陽町駅のギャラリーエークウッドで「6つの点から広がる世界 点字にふれる」という展覧会を開催しました。展覧会に入るとまず、美術家の光島貴之さんみつしまたかゆきによる作品「エークウッドからひろがるそよぐまちの風」が出迎えてくれます。この作品は、全盲の光島さんがギャラリー近隣の深川の街を歩き、そこで捉えた様々な感覚—運河沿いの風やお寺の太鼓、ベーグル屋さんの賑わいなど—を表現した、手でさわって鑑賞するアートです。会場の奥へ進むと、視覚障害や点字の読み書きなどについての解説のほか、ビール缶など点字付きのパッケージ、大阪の「てんやく絵本ふれあい文庫」で手作りされたてんやく絵本、日本点字図書館からお借りした点字図書や録音図書、また葛飾北斎か ながわおきなみうらの神奈川沖浪裏を浮き彫りにした「手で見る絵画」などなど、様々なさわれる資料を展示しました。「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」という映画にもなった、白鳥建二さんしらとりけんじが深川の街を歩きながら撮影した写真も、手で直接プリントにさわることができます。

ところで、なぜこのギャラリーで「点字」の展覧会が開かれたのでしょうか。ギャラリーエークウッドは、竹中工務店の社会貢献の一環として、「建築・愉しむ」をコンセプトとして設立され、様々な展覧会を開催しています。2021年には「社会のダイバーシティを考える 立つ、歩く、走る—義足でこえる心の壁」という義足の展覧会を開催しました。一見、義足が「建築」とどう関係するの？と思われるかもしれませんが、建物づくり、まちづくりにも、様々な人々が一緒にたのしく暮らせる社会を考える想像力と知識が必要不可欠です。

義足展には、ふれる博物館いとうの伊藤館長ほか、日点の方々にもご来場いただき、私たちにとって点字の世界との出会いにもなりました。そして「社会のダイバーシティを考える」シリーズ第二弾として、点字を出発点に、色々な見え方について知り、感じてもらおうと、日点の皆さんにご協力頂き展覧会を作りま

した。

実際に展覧会を開催してみると、これまでにない変化もありました。普段は「さわらないでください」という注意書きをつけることが多いですが、今回の展覧会では「さわってごらんいただけます」。晴眼者がメインターゲットの企画ではありましたが、白杖を持った方も来てくれました。「さわってると面白いね」「この部分が気持ちいい」「こんなものもあったんだね」と見える人、見えない人も、一緒に手でさわりながらお話する時間が楽しく、手から共感が広がっていくのを感じました。受付スタッフから「今日はじめて筆談をしました」という声も聞きました。

展覧会には、点訳や福祉に携わる方はもちろん、夏休みのお子さんご家族や、工務店へ打合せに来たスーツの方々など、色々な方にご来場いただきました。中には展覧会を見て「点字を取り入れてみたい」というアクセサリー作家の方も。「点字に興味があって来ました!」というのは、意外にも小学生が多かったです。

ご来場者の様子を見ていると、普段美術館やお店などで「さわらないでください」に慣れている大人たちは、なかなか展示品に手を伸ばさない人が多い中(そういう時は、スタッフが時々「どうぞさわってください」とお声かけします)、子どもたちは自然と手を出し、どんどんさわっていきます。ゴールボールを実際に転がしてみたり、点字器体験では、自分の名前を打ったらすっかり書き方を覚え、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんや従兄弟の名前まで、親戚みんなの点字名刺を作ってくれた子もいました。そんな姿を見て、「まずさわってみる」ことは、目でみるだけよりも、もっと豊かな情報を伝えてくれるのではないかと思います。ふれることを通して、日頃見落としているかもしれないささやかな感覚や、他者と共感するオープンな心を、私たち自身が教わった気がします。

こうさいしょう ま
撮影：光齋 昇馬



ふれる博物館 第14回企画展「バードタッチング」関連イベント 鳥類学者が語る『骨から探る鳥のふしぎ』開催報告

北海道大学大学院文学院博物館学研究室 しま えり こ 島 絵里子

鳥類学者の川上^{かわかみかずと}和人先生を講師にお招きして、講演会及びワークショップ「鳥類学者が語る『骨から探る鳥のふしぎ』」を、8月24日に開催しました。

午前と午後の二部形式。午前は講演会で、視覚に障害のある方が26名、付添の方が17名、晴眼者が5名の、合計48名が参加しました。午後はワークショップ。視覚に障害のある方が10名と付添の方が3名で、その内12名が、午前の講演会にも参加した方々でした。

講演会では、まず、鳥の形態や進化のお話をお聞きしたのち、ペリカンやダチョウ、ニワトリなどの骨のほか、フクロウやタカなどの翼の羽根を触りました。すべて、実物の標本です。参加者からは、「生物の進化の過程からの鳥の貴重なお話、とても興味深く聞き入ってしまいました」、「ダチョウとペリカンの骨を触って比較できて、走ること、飛ぶこと、それぞれに適応した進化が実際に伝わってきた」などの感想が寄せられました。

続いて、ワークショップ。参加者とスタッフ全員で自己紹介をしたのち開始。一人一人の目の前には、サギ一頭の実物の骨と、鳥のタッチカービング（木彫り）が置いてあります。まず、タッチカービングで鳥の全体の形を把握してから、サギの骨に一つずつ触っていきました。上腕骨、^{とうこつ}橈骨、^{しゃこつ}尺骨、胸骨、^{りゅうこつとつ き}竜骨突起、^{とうがいこつ}頭蓋骨などなど。川上先生の説明を聞きながらサギの全身の骨に触ったあとで、今度はペンギン、カツオドリ、タカの骨などを触りました。それぞれの環境にあわせて、それぞれの骨の形は違って、その環境にあわせて使いやすい骨の形になっているということを感じ、驚いてはまた触るという時間でした。

触るからこそ分かる。実物標本の触察から実感した時間でした。またこのような企画をできたらと考えております。

「273,000 人」の見方

たちばなあけひこ
館長 立花明彦

本年 6 月、厚労省から「令和 4 年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」の結果が公表されました。この調査は、障害者施策の推進に向けた検討の基礎資料とするため、在宅の障害児・者等（難病等患者や法制度上の障害者ではないが生活のしづらさを有する方などを含む）の生活実態とニーズを把握することを目的として、基本 5 年に 1 回の頻度で行われています。ただ、今回はコロナ禍で調査を 1 年繰り下げたため、6 年ぶりの 2022 年 12 月に実施されました。

表題にある数字は、身体障害者手帳を所持する視覚障害者推計数です。前回の 2016 年調査では 312,000 人でした。同種の調査での視覚障害者数は 1980 年以降、306,000 人～ 357,000 人の間を推移していました。よって、30 万人を切ったことは驚きとして受け止められています。視覚障害を含めた身体障害者（聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害等）数は 415 万 9,000 人で、前回調査よりも 3 % の減少ですが、視覚障害は 12.5 % で減少幅が大きくなっていることも注目されます。

年齢別では、65 歳以上が 187,000 人（68.5 %）と 7 割弱を占め、視覚障害の度合では、重度となる身体障害者手帳 1 級と 2 級が 206,000 人で 75.4 % となっています。「7 割が高齢で重度」が視覚障害者数の実態であり特徴と言えます。また意思疎通支援の手段・機器・サービスの利用状況を見ると、点字使用者数の推計となる「点字・点字タイプライター・点字ディスプレイ・点字盤」の利用は 21.4 % でした。

調査は全国約 5,400 の国勢調査の調査区の 24,427 人に調査票を配布し、14,079 人から有効回答を得て集計し、推計値を算出したものであることを踏まえねばなりません。今後の国の施策においてはこの数字を一つの拠り所にして進められます。数字のみが独り歩きせぬよう見守ることも大切にせねばなりません。

点字文化を守り伝え続けるために

さわむらじゅんいちろう
図書製作部長 澤村 潤 一郎

点字文化を守り伝えることは当館の大切な使命のひとつですが、それを取りまく状況はハード・ソフト両面において年々厳しくなっています。しかし、だからと言って手をこまねいてはいられません。当館では、昨年度より「点字製作体制検討ワーキンググループ」を立ち上げ、さまざまな視点から課題を洗い出し、われわれ主体でできることから対策に着手しています。

今年度から取り組んでいるのが、関東各地で活動しておられる点訳者・点訳グループとの連携です。当館が単独で育成できる点訳者・校正者にはどうしても限りがあります。そこで、これまで当館と緊密な繋がりはなかったけれども志を同じくする方々にお声がけし、7月に点字蔵書製作に関する説明会を開きました。その結果、6団体と1名の個人よりご協力のお申し出をいただくことができました。

図書製作部内での連携も進めています。製作の省力化・効率化を進めるには、いまやテキストデータからの自動点訳処理が欠かせません。そこで、整ったテキストデータをいかに早く入手するかが肝となります。出版社から提供いただけることもあります。そうでない場合は、紙の原本をスキャンし、OCRソフトで文字変換して生成する必要があります。変換の過程で発生する文字等の誤認識を、これまで特定のスタッフが目視で確認し丁寧に修正していましたが、処理量とスピードにはどうしても限りがありました。

そこで、録音製作課の電子書籍製作室で2013年から実施している「アクセシブルな電子書籍製作実験プロジェクト」との連携を強化することにしました。そのクラウドソーシング型の校正システムを、特にスピードが重要なプライベートサービスにおける点訳のためのテキストデータ生成にも積極的に活用します。

ルイ・ブライユが点字を考案してから、2025年で200年を迎えます。その歴史を胸に、ひとつひとつの課題に真摯に向き合いながら、当館は点字文化の未来のために尽してゆきます。

追悼 鶴岡巍先生

朗読ボランティア いしばしみちこ
石橋迪子

今年5月25日、朗読ボランティアの指導者、鶴岡巍^{つるおかたかし}先生が亡くなりました。89歳でした。2018年には、声のライブラリー発足60年を記念した講演を、日点みんなの集いでして下さいました。本間先生の著書『指と耳で読む』に、テープ雑誌協力者として“ニッポン放送の鶴岡巍アナ”の名前が出てきます。^{ありよし}有吉佐和子^{さわこ}さんの小説『閉店時間』（昭和38年）の主人公は、始まったばかりのテープライブラリーで朗読奉仕をするという設定ですが、先生が実名で描かれています。その部分を引用します。“鶴岡アナウンサーは机の前に座ると、『初めておいでになった方が多いようですので、最初にお断りしておきますが、実地指導というのは要するに欠点を指摘することになります。悪口ばかり云うこととなりますが、（中略）どうぞ、お気を悪くなさらないで下さい』”引用終わり まさにそんな感じです。一人一人に数行読ませて、厳しくも的確に説明し、ご自身でもやって下さるのですが、頭では納得しても、言われた通りに出来ないのです。何度もやるうちに泣きたくってきます。鶴岡先生は、その後、フジテレビ、テレビ東京で解説委員をなさるとともに、朗読ボランティアの指導は、方々で60年以上続けて下さいました。私はラジオ福島から戻り、テレビ東京で番組を担当した時に先生に出会い、日点をご紹介頂きました。先生は日点の他にも都立等公共図書館、他のグループでも指導され、多くの朗読ボランティアを育てて下さいました。勉強会は、私はここ7～8年の教えが心に残ります。紙を読んではいけない、相手を見てその人に向かって話す。大切な部分を印象づけるために立てる時、同じパターンで立てない。立てる所以外をいかに捨てるかが大切、この話し手はイヤだと思われずに聞いて頂くには、上手い下手ではなく、聞くことで安らぐ雰囲気を作る、その為には、まずこちらが相手に対して心を開く、等です。利用者の皆様のお役に立てる様に、先生の教えを胸にもう少し頑張ります。鶴岡巍先生、有難うございました。

目からウロコならぬ 「手」からウロコ」への誘い

いざな
もと き あきひろ
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科教授 元木章博

2024年6月15日土曜日、川崎市視覚障害者情報文化センターでの触察イベント【東京・神奈川の『触れる』有名建物展】でお会いした視覚障害当事者の方から頂戴したメールの一文です。

メカラウロコ トイウヨリモ テカラウロコデシタ

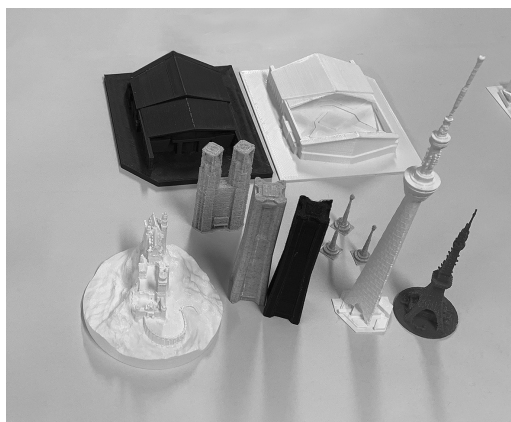
このメールを頂戴した時、「ああ、触察イベントを実施してきて、本当に良かった。これでまた一人、当事者の方へ3D模型による新しい情報保障の手段をお伝え出来たかな」と思いました。

イベント後、センター職員の皆さんが仰るには、当事者の「触ってわかるものに対する熱量」に驚かれたそうです。私の触察イベントに向けた思いの炎ですが、その燃料は、この当事者の皆さんの熱（量）によるものです。その炎はメラメラと燃え上がるというよりも、1964年の東京オリンピックの際、ギリシャから飛行機で運ぶのに使われたハクキンカイロの中の種火に似ています。この火を頼りに2年前から日本各地へ熱を運び、またそこで熱を得てきました。

2022年、触察イベントを実施するために、先ず点字図書館の説得から始めました。やはり、3D模型と言われても「聞いたことはあるのですが、うちにはまだ早いと思います」といった主旨のご発言と併せて、やんわりとお断りされたことが何度もありました。何処の馬の骨か分からないヤツが、知らない物の営業に来る訳ですから警戒して当然だと思います。そんな当時の私ですが「まだまだ、たくさん攻略先があって楽しみだなあ」などと自分を励まし奮い立たせておりました。

そして、その日が来ました。とうとう、触察イベントへの思いの種火を採火したのです。2022年11月3日文化の日、私にとってのギリシャ・オリンピアは、佐賀県立視覚障害者情報・交流センター“あいさが”でした。開所して間もない“あいさが”は、まさに古代オリンピアの神殿でした。「あいさがあすなろフェスタ」は、職員による図書資料の紹介コーナーや点字体験等、日常生活用具も並び、近隣高校の生徒によるオカリナ演奏と、もりだくさんのお

祭りで、その一つのコーナーとして「触れる博物館」を出展し、3D模型や立体地図を並べました。当事者の方をご案内し、初めて触れていただいた後は、本当に火が点いたように、あの模型、この模型と渡り歩いて触れていただきました。採火された火が、当事者の方に燃え移った瞬間でした。そしてその火は、瞬く間に“あいさが”へ来て下さった当事者の皆さん全体に燃え広がりました（何だか、響きが物騒ですね）。



展示された3D模型の一部

その後、私は種火を持って全国を歩きまわりました。東に点字図書館の新庁舎があれば無くなる前に旧庁舎を3Dデータで残し、西にもう直ぐ校舎が無くなってしまいう盲学校があれば、現地調査に行き、南に点字図書館の出張イベントがあれば出展し、北に新しい野球場が出来たと言え、3Dデータをモデリングし、それぞれの触察イベントに向けて、3D模型を印刷して、種火とともに持参します。

これまで開催支援してきた触察イベントですが、どのイベントでも一様に当事者の皆さんの笑顔と驚愕の表情、感謝の念と“熱”を感じました。再度、戻りまして、2024年6月の川崎市視覚障害者情報文化センターでの触察イベントでのことです。ある当事者の方に、当方が横浜マリントワーの3D模型をお渡しして説明を始めた時のことでした。その方は「ありがとうございます。ここは私と家族の思い出の場所で、触れて形が分かることで色々思い出すことが出来ました」という主旨のことを言われていました。晴眼者の皆さんは記念写真を撮影することがあると思いますが、もしかしたら、3D模型は当事者の皆さんにとって思い出と紐づけることが出来る記念写真のようなものなのかもしれません。燃え盛っているというより、その方に種火が点いた気がしました。

さて、そろそろ、皆さんも手からウロコを落としてみませんか。

編集部から：川崎市視覚障害者情報文化センターでは、来る11月17日、元木研究室の協力で、パリの有名建築を触る「触れるパリ旅行」を開催します。

外出支援にあなたの手を貸して！

やまぐちかずひこ
NPO 法人 TOMO 前理事長 山口和彦

この8月、昼間の暑さを避けて朝の散歩に出かけた時のことです。白杖を片手にさわやかな風を肌を感じながら歩いているうちに壁にぶつかりました。方向を変えても壁と駐車している車にぶつかるばかり。駐車場に入り込んでしまったようですが、出口がわかりません。しばらくすると車の警笛が鳴りました。「ピ、ピ、ビー」車がバックしてくるらしい、怖かったです。私は、ぶつけられないように手に持った白杖を高く上げ、大きく左右に振りました。「どうされましたか？」やさしそうな男性の声です。いま、自分がどこにいるのかわからないので、取り敢えず、「駅に行きたいのですが…」と、半ば泣き声まじりの返事です。「あっ、そこの出口を出て右へ行行って下さい。」と、その男性は出口を指差して教えてくれました。「ありがとう。でも、その出口がわからないのです。出口まで連れて行って頂けますか。」なんとか自宅に帰宅できましたが、冷や汗まみれでした。

目が見えないと、散歩や買い物もままなりません。視覚に障害を持つ高齢者が単独で外出することは、大きな危険を伴うものです。現在、視覚障害者は27万3千人で、重度障害者は20万6千人（75.5%）です。同行援護制度が施行されたのは2011年でした。制度施行にあたり、NPO法人TOMOが同行援護事業を始め、私はその責任者として利用者、ガイドヘルパーからさまざまな相談を受けてきました。このたび、同行援護サービスの発展を願って、在職中に得られた知見を本にまとめました。実は、現在でも支援するガイドヘルパーが不足しているため、この制度は十分にその機能を果たしていません。視覚障害者が制度を活用して社会参加ができるように、あなたの手をお貸し下さい。

『移動の自由を支援～あなたも挑戦！！ガイドヘルパー「同行援護制度の従事者」へ～』

山口和彦著 定価：1,500円（非課税） 発行：（社福）桜雲会 おうんかい

相談デスクを通して見えてきたこと

こばやし あきら
自立支援課 小林 章

見えない、見えにくい困りごと相談デスクは、2023年に設置され2年目を迎えました。用具事業課で購入した機器を使いこなせないなどの困りごとを抱える方々に対して、生活上の不安を傾聴して短期支援を行うこと、また、視覚障害に関する様々な相談や問い合わせの窓口として、ワンストップ的機能をも担い、問題解決のために適切な機関への橋渡しをすることなどを目的としています。

昨年度もっとも多かった相談は情報収集を目的としたもので、34件中12件、35%を占めていました。その中には障害者手帳未取得の方が8名いました。相談できる場所がなかなか見つからなかった、知らない話をたくさん聞けたという感想が多く聞かれました。障害者手帳を取得できれば利用できる障害福祉サービス等の情報を伝えることで、相談者の不安を軽減できました。

2番目に多かったのは、用具選定、用具利用関係の相談で8件、23.5%でした。そのうち訪問による支援を4件行いました。具体的な困りごとがあり来館された方には、ショップ店頭で用具を紹介することで困りごとを解消することができました。

3番目に多かったのは就労に関わる相談で6件、17.4%でした。ジョブコーチ支援センターや職業カウンセラーとの調整、就労系の障害福祉サービスや自立訓練の紹介、就職情報提供サイトの紹介等を行いました。

さらに少数ですが、学齢期のお子さんに関する相談が4件ありました。小中学校の途中で視機能が低下して墨字での勉強が難しくなった、通学が不安になった、高校進学を普通校にするか盲学校にするかで気持ちが大きく揺れていた等の相談に対応しました。

以上、改めて昨年度の相談内容を振り返ってみると、情報難民とも言える方々が大勢いると感じます。今後も当館の資源を最大限に活用して、支援を必要とする幅広い年齢層の方々の不安軽減や解消に貢献していくことが必要だと思います。



私と日点

音声デイジー、テキストデイジー編集ボランティア

たかはし ゆ み

高橋由美

1999年5月、朝日新聞で「デイジーボランティア募集」の小さな広告を見つけ、面白そうだなあとと思い応募しました。簡単な試験がありましたが、その時はパソコンの基礎的知識が不足していたので残念ながら不合格でした。翌年、2期生として参加できるとのお話をいただき、何回かの講習を受けたのち、音声デイジー編集ボランティアとしての活動がスタートしました。

2001年には3期生の仲間も加わり、点字図書館では同窓会も開かれました。その際、編集の苦労や、個々の工夫した方法を共有することができ、とても参考になりました。たまにその時の写真を見返しては、思い出しています。

2013年には、それまでの音声デイジーからテキストデイジーの編集へと活動の幅を拡げました。編集上の不明な点はメールで質問していますが、それでも理解できない時はパソコンを抱えて点字図書館まで直行します。最近大変だったのは、A4判の400ページ以上ある医学書の編集でした。同じような画像が1500ほどあり、編集に2か月くらいかかりました。心が折れそうになりながらも、読むのを楽しみに待っていて下さる方を思い浮かべて、なんとか乗り越えました。因みに私の好きな作業は、表の作成です。表の要素を入力して、製作ソフトのボタン一つで一瞬にして表組されるので嬉しくなります。また、編集方法が改訂されるとリモート講習があって、2時間余りの熱心な質疑応答はとても勉強になります。ただ、音声デイジーを編集していた頃と異なり、仲間と直接会う機会がなくなり少し寂しい気がします。

デイジーの編集に悪戦苦闘することも多々ありますが、作業はとても楽しいです。だからこんなに長く続けてこられたのだと思います。自分のボケ防止のためにも、この活動はとても有難いと思っています。微力ながらこれからも続けていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願いします。いつも丁寧に校正していただいている方々に、改めてお礼申し上げます。

❖ 手数料免除口座開設のご案内 ❖

このたび、株式会社ゆうちょ銀行の承認を得て「手数料免除口座」を開設いたしました。「社会福祉の増進を目的とする事業に対する寄付金の募集」にのみ使用できる口座で、窓口でお手続きいただいた場合に限り、払込手数料・硬貨取扱料金が免除されます。こちらの払込取扱票は青色になります。

当館からお送りする記入済の払込取扱票のほか、ゆうちょ銀行備え付けの払込取扱票に下記の口座番号をご記入いただき、窓口にて「手数料免除口座への払込です」とお伝えいただければ、手数料は一切かかりません。

従来は皆様に赤色の払込取扱票をお送りし、ご寄付をお願いしておりましたが、払込手数料は加入者である当館の負担のため、2023年度の払込手数料総額は約118万円に及びました。この金額は寄付金総額の1.3%にあたります。

手数料免除口座への払込はA T Mの対象外となっており、皆様にはご不便をお掛けいたしますが、お寄せいただく寄付金を運営費として活用させていただくため、何卒ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行 寄付金専用手数料免除口座 口座番号：00180-2-792949

払 込 取 扱 票														
99														
口 座 記 号 番 号										金 額				
0 0 1 8 0 - 2 - 7 9 2 9 4 9										千 百 十 万 千 百 十 円				
社会福祉法人 日本点字図書館										料 金				
※ 窓口での払込料金は無料です。本紙のATMでの使用はできません。										備 考				
ご住所 〒										免				
フリガナ お名前														
(電話番号 - -)														
ご依頼人欄に、おとこ・おなまえをご記入ください。(承認番号東第 62751 号)										日 附 印				
これより下部には何も記入しないでください。														

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。

記載事項を訂正した場合はその箇所に訂正印を押してください。
 切り取らないでください。

振替払込請求書兼受領証														
口 座 記 号 番 号										金 額				
0 0 1 8 0 - 2 - 7 9 2 9 4 9										千 百 十 万 千 百 十 円				
社会福祉法人 日本点字図書館										料 金				
お名前										備 考				
ご依頼人										日 附 印				
(消費税込み)										料 金				
円										備 考				
この受領証は、大切に保管してください。														

スマートフォンは目が見えなくても使えます

あいた ゆかり
図書情報課 相田侑佳里

当館では、水曜日・金曜日に、1コマ90分、全3回を一区切りとした初心者向けのIT教室を実施しています。視覚に障害をお持ちの方を対象に、パソコンとスマートフォン（iPhone）の指導を行っていますが、最近はおっぴら、スマートフォンをご希望の方が多いです。マンツーマンの指導ですので、ご自身のペースに合わせて、ゆっくり、分からないことは何度でも質問可能です。

晴眼者でも使用している人が多いiPhoneですが、視覚障害者が使用する際は、「VoiceOver」というiPhoneの標準機能であるスクリーンリーダーをオンにします。そうすると、画面上に濃い矩形の枠がVoiceOverカーソルとして現れます。このVoiceOverカーソルを移動させるたびに、矩形の枠の中に表示されている文字を音声で読み上げてくれますので、画面が見えなくてもiPhoneを使用することができます。

この「VoiceOver」がオンの際は、「ジェスチャ」という特別な指使いで操作が必要です。例えば、アプリを起動する時は1本指でトントンッと画面を2回軽くタップします。画面に表示されている文章の全文を読み上げさせたい場合は、2本指で画面を下から上にスーッとスワイプします。このようなジェスチャは様々な種類があり、中には4本の指を使ったり、2本の指で「Z」の文字を描くように動かしたりする複雑な動作もあります。

IT教室では、上記のような「ジェスチャ」の基本操作を習得していただきながら、受講者の目的に応じた指導を進めています。インターネット検索や電話・メールの送受信はもちろん、視覚障害者向けの便利なアプリの紹介も行っています。

指導当初は「本当に私でもできるかしら？」と不安そうな受講者も、「とっても便利！これならできそう！」と明るい表情に変わっていくのを見ると、私もとても嬉しくなります。

今後も、視覚障害を持つ方が日常生活の中でICTを活用できるよう、この教室を通じて少しでも貢献してまいりたいと思います。

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な商品をご紹介します。
ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

音声マルチリモコン シャベリモ

【大きさ】(幅) 約 27 × (高さ) 80 × (奥行) 10mm

【重さ】 約 15g

【メーカー】 HotaluX 株式会社

【価格】 6,980 円 (税込み)



赤外線リモコンを使用するテレビ、エアコン、照明器具、扇風機の4種の家電それぞれ1台ずつ音声で操作できるマルチリモコンです。音声のみで操作できるので、家電ごとのリモコンを手にとって操作する必要がなくなります。

リモコンはUSB電源に接続したまま使用し、ネットワーク接続は不要です。

テレビを操作する場合、「ねえテレビ」と話しかけると「はい、何でしょうか」と応答します。続けて「電源をいれて」と話しかけると「電源をいれます」と応答し、信号が送られ電源が入ります。

その他、決まったキーワードを話すことでチャンネルや音量、地デジ、BSなどの変更ができます。

【訂正とお詫び】 前号の11ページ、「バードタッチング展」の文中、内山^{うちやま}春雄様のお名前が誤っておりました。「内田春雄氏」は、正しくは「内山春雄氏」です。訂正し、お詫び申し上げます。

第22回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート

さわ かず き かけはし たけ し
澤 和樹 & 梯 剛之 デュオコンサート

[日時] 2024年11月24日(日) 13時30分開場、14時開演
[会場] 東京文化会館 小ホール(JR上野駅 公園口 徒歩1分)
[料金] 4,000円(全席自由)
[曲目(予定)]

モーツァルト: ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト長調 K.379
ベートーヴェン: ヴァイオリンとピアノのためのソナタ No.9 イ長調
「クロイツェル」
フランク: ヴァイオリンとピアノのためのソナタ イ長調

チケットは当館総務課(電話 03-3209-0241)、わくわく
用具ショップのほか、チケット
ぴあでもお求めいただけます。



澤 和樹
(ヴァイオリン)



梯 剛之
(ピアノ)

「明日につながる支援の力」は都合により休載します。

にってんフォーラム〈第133号〉 2024 秋

発行 2024年10月25日〈年4回発行〉
発行人 長岡英司
編集人 立花明彦
発行所 社会福祉法人日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4
電話03-3209-0241(代) FAX03-3204-5641
URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したり
ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みていて!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

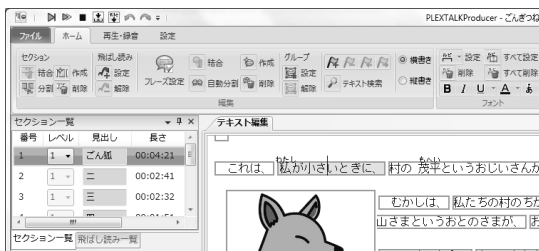
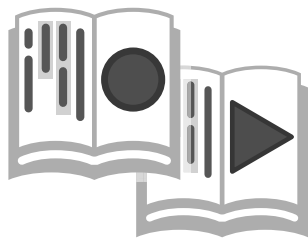
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC

検索



音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々 !

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元 :

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ:

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。